

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①育成を目指す資質・能力を明確にした校内授業研を実施し、子どもが主体的に学習に取り組む授業を目指す。 ②前・後期末に生徒による授業評価を実施し、集計結果を基にしながら授業改善を行う。	①今年度は人権の視点を外し、校内研究授業を全教員が参加する形で2回行った。研究協議の中で、それぞれの教員がさまざまな気づきがあり、授業改善に生かすことができた。今後はより良い研修方法についても検討を行う。 ②2回授業評価アンケートを実施し、集計結果をそれぞれの教員が授業改善につなげる事ができた。	B
人権教育	①全校道徳をきっかけとして、全校で人権作文に取り組みながら、人権意識を高める取り組みを継続する。 ②国際平和スピーチコンテストを通して、全校での人権意識の高まりと考えるきっかけづくりを目指す。	①計画的に人権作文に全校で取り組み、人権意識を高めることができた。 ②国際平和スピーチへの参加を広く呼びかけることで意識を高めることができた。また、文化祭でスピーチを実際に行うことによって、スピーチ参加者だけでなく全校的な取組とすることができた	B
健康教育	①生徒保健委員会での取組等を通して、生徒が自らの生活課題に目を向け、主体的に健康な生活を送れるよう、自身の健康について理解を深める。 ②実技分野の授業や体育的行事での安全な取組と、保健分野の学習を通して、自他の健康・安全への意識を高める。	①毎月発行している保健だよりや生徒保健委員会の集会発表を通して、健康に関する意識を高めることができた。 「健康ウィーク」から自身の生活を振り返り健康な生活を心がけるよう啓発することができた。 ②実技の授業で、ケガの発生事例があったので、安全面への取組をさらに意識して行う。保健分野では、パワーポイントを使ったりICTを用いてよりわかりやすく自他の健康・安全への意識を高めることができた。	A
ESDの推進	①ESDを推進するための生徒会活動や行事を生徒が主体的に運営することで、ESD推進を意識をさらに高めていく。	①生徒会活動や学校行事・学年行事等、あるいは今年度から復活した様々な地域行事を生徒が主体となって運営することで、多様な価値観をもつ人々と関わり、ESD推進を図ることができた。	B
いじめへの対応	①引き続き毎週1回のいじめ防止対策委員会を継続して開催し、大きく捉えて小さくまとめられるよう共通理解、対応の経過確認を行っていく。 ②5月に記名式の生活アンケートが追加されるので、職員全体で積極的な教育相談を行っていく。	①毎週開催されたいじめ防止対策委員会において共通理解された内容を、専任が全職員に発信し、経過確認や注意喚起に役立てた。 ②教育相談やアンケートの結果を丁寧に分析し、いじめの早期発見を推進した。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①学校運営に携わる人材と機会を増やし、役割分担を行うことで、一人ひとりの負担軽減を図りながら、経験を積み重ねられるように、チーム学校として活動する。 ②行事や会議の実施方法や実施時期の見直しを進め、負担軽減と均等化を図る。	①積極的に行動したり、役割を全うしようとするようすが多くみられるようになった。次年度以降の学校運営につながるような活動になった。 ②今年度の活動を参考にしながら、次年度により適切な運営を行い、負担軽減につなげられるような成果が得られた。	B
児童生徒理解	①生徒、職員共に学校生活を送りやすいように「きまり」や「慣例」をさらに見直していく。 ②教育相談を有効活用し、場合によってはSC、SSWに繋げて連携を図っていく。	①「きまり」や「慣例」についてその都度確認しながら、共通理解ができるよう努めることができた。 ②年3回の教育相談を行い、生徒理解につなげることができた。SCやSSWと連携し、様々な問題を抱える生徒、保護者の対応につなげることができた。	A
特別支援教育	①特別支援教室の利用方法を変更していく。また、利用する際に保護者や生徒と共に目標設定を行い、学期ごと等に振り返りを行っていく。 ②情報共有や情報提供を行い、職員全体で特別支援に対する意識を高めていく。	①特別支援教室を利用する際の目的を生徒・保護者とともに明確化して、継続的な利用を図れるように目指すことができた。 ②特別支援教育に関わる変更点等を校内研修を通して情報提供を行い、今後のことを考える場を使って意識を高めることができた。	A
地域学校協働活動	①学校運営協議会及び連携協議会などとも協力しながら、生徒の目指す姿や資質・能力を育成するための共通理解を深める。②社会状況の変化に伴って、実現可能な教育課程を編成して適宜情報を発信する。	①昨年度以上に地域と共通理解を深めながら、連携・協力を図ることができた。 ②コロナ禍前に比べて、学校行事等のあり方を継続性のあるものに変えるとともに、地域とも協力して、協議会やPTAの定例会等で情報を発信することができた。	B

重点取組分野	令和 6 年度	
	具体的取組	
授業改善	①校内研究授業を実施し、研究協議のあり方を工夫し、学校全体で子どもが主体的に取り組む授業づくりを目指す。 ②授業評価アンケートを実施し、集計結果を基にしながら、授業改善を行う。	
人権教育	①道徳担当が進んで授業を計画し、学校全体としての意識を高めていく。 ②全校での人権作文への取り組みの継続、また、国際平和スピーチコンテストの参加の呼びかけなどを通して、人権意識の基礎を築く。	
健康教育	①引き続き保健だよりの発行や生徒保健委員会の活動を通して、生徒が自身の生活課題に目を向け、主体的に健康な生活を送れるよう、健康について意識を高める。 ②実技授業や体育的行事において、安全な授業展開、行事の実施ができるよう改善する意識を高める。	
ESDの推進	①地域行事や国際交流ラウンジ等へのボランティア参加を促し、さらに多様な価値観をもつ人々と関わる機会を増やす。そのことによって、公平公正な態度を伸張させる。	
いじめへの対応	①引き続き毎週1回のいじめ防止対策委員会を継続して開催し、いじめ認知を積極的に行うことで事態を大きく捉えて小さくまとめられるよう共通理解、対応の経過確認を行っていく。 ②5月に記名式の生活アンケートが追加されるので、職員全体で積極的な教育相談を行っていく。	
人材育成・組織運営(働き方)	①経験の浅い教員が積極的に学校運営に携われるように、先輩教員が責任を果たす姿を見せるとともに、経験の浅い教員の負担を軽減するために、積極的に補助、助言を行う。 ②会議時間を十分に設定するだけでなく、時程や会議の回数の見直しも行き、効率化を図ることによって時間の確保をすすめていく。	
児童生徒理解	①生徒が主体的に自治活動を行うことができるような集団・学校づくりを目指す。 ②教育相談を通して生徒理解を深めるとともに、職員間での情報の共有を密に図り、全体で個々の生徒を見守っていく意識を高める。	
特別支援教育	①特別支援教室において、不登校支援だけでなく、校内での配信授業等で学習支援を行えるような環境を整えて、実施することで充実を図っていく。 ②特別支援教育に関する情報や取り組みを職員会議等で共有して、職員の意識を高めていく。	
地域学校協働活動	①学校運営協議会や連携協議会、PTA会合などを通して、生徒の目指す姿や資質・能力を育成するための共通理解を深めるとともに情報発信を行う。 ②学校行事や地域祭礼等での連携について、現実的で継続性のある新たな形を模索していき、地域との共同活動を充実させていく。	

<p><b>ブロック内 評価後の 気付き</b></p>	<p>中一ギャップを軽減するために、部活動交流会を実施した。鶴見小学校・豊岡小学校の6年生全員が鶴見中学校 に来校し、部活動説明会と部活動体験を行った。主導した中学生の意識が高まったことや、参加した小学生や引率の小学校教員の安心感につながったことは大変有効であった。 地域行事の復活により、学校外での小中交流も実現した。中学生のリーダーとしての意識が高まった。</p>
<p><b>学校関係 者評価</b></p>	<p>学習指導や生活指導については、学校の努力の成果が明らかに見られる。しかし、コロナの影響がなくなった現状 において、中学生の地域参加が低調であることは残念である。特に地域防災拠点活動への中学生の参加という点に関しては、中学校側のさらなる協力を求めたい。</p>

<p><b>ブロック内 評価後の 気付き</b></p>	
<p><b>学校関係 者評価</b></p>	

<p><b>中期取組 目標 振り返り</b></p>	<p>小中の教員間交流の実施を想定していた時期に、インフルエンザによる学級閉鎖が断続的に続いたため 実施でき なかつたことが残念である。 中期取組目標には関係がないと思われるかも知れないが、施設設備の老朽化が目立った。生徒用全トイレの水が流れないという状況で臨時一斉下校。教室の雨漏りが3回の修繕を経ても改善されず教室の引っ越し。教室の蛍光灯の寿命による発煙が多発。教職員の負担は明らかに増加した。</p>
------------------------------------	---

<p><b>中期取組 目標 振り返り</b></p>	
------------------------------------	--